

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 日本産業衛生学会東海地方会
〒470-11
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1-98
藤田学園保健衛生大学医学部公衆衛生
学教室内 電話(0562)93-2453
発行責任者 島 正吾

(題字 皿井 進筆)

地方会ニュース発刊にあたって



島 正吾会長(写真左)と皿井 進前会長(写真右)

産衛活動の告知板として

東海地方会はこれまで30余年にわたって、皿井会長のもとで日本でも屈指の活発な産衛活動を行ってまいりました。この度私がお後を受けて、地方会のお世話を命ぜられました。改めてその責任の大きさを痛感しております。

ところで今回諸先生のご努力で、おそらく全国地方会ではじめての試みと思いますが、「地方会ニュース」が誕生したことは、誠に素晴らしいことかと思えます。従来からの地方会活動を基盤にして、本紙を通じて現地方会員320余名のお互いの連帯感や親睦を深めていくのに大いに役立つことでしょう。そして、これは近い将来日常の産衛活動の告知板として気楽に利用したり、また自由に意見を述べ合ったりできるような、お茶の間の雰囲気を持ったものになることもいいでしょうね。そして当面は回数は少なくとも、やがて毎月皆さんから発行が待たれるようなものに育てていきたいものです。

それから、今後の展開としては、現在産業衛生に従事している一人でも多くの方が、会員として私たちの活動に加わって欲しいこと、また産業保健と地域保健が積極的に交流・連動して、21世紀をめざしたより健康でフレッシュな力に溢れた社会づくりに邁進したいものです。

地方会会長 島 正吾

新しい息吹きと大きな前進を

昭和31年3月、鯉沼先生が名古屋大学を停年退職され、東京へ引きあげられるにあたって、産業衛生学会東海地方会長の職を、私に指名された。その後、昭和59年3月迄の長い間、会員の皆様、地方会の為になにかと御支援をいただいたことに対して、あらためて御礼を申しあげる。

一つの事業は、余り長く一人の人が続けると変化がなく、活気を失うものだ。私もこの考えで以前から地方会長のやめたいと思っていた。此の度の選挙で、新地方会長が選出されたので有難く思っている。新会長のもとで、当地方会が、初代鯉沼会長の意を体して発展されることと思う。今度発刊されたこの「地方会ニュース」も、その意味ではこの地方の産衛活動の新しい息吹と、さらに大きく前進しようとする会員の皆さんのエネルギーを示す画期的な試みといえるでしょうね。

会長の職を去るにあたり、心に浮かぶさまざまな思い出のうちの一、二を記してみた。三重大学の川畑教授の死と先生主催の地方学会の帰路の数名の人のこと、永田教授の御葬儀、静岡県三島市の東レ病院、吉原の日産自動車工場、蒲原の日本軽金属工場等々、今はこの地にいない人々のことが思い出されてならない。又、蒲郡の豊田の施設も忘れられない大切な思い出の一つだ。

地方会前会長 皿井 進

会員の声

“研修会一泊コースを”

地方会二大行事の一つである研修会には、今年は大学研究機関からも多数の参加があって、研修会発足当時（昭和33年）の盛況を思い出させるものがあった。第一回研修会の懇親会で堀内教授を囲んで歓談している写真が私のアルバムに残っているが、和気あいあいの中に産業医学への情熱の漂う一コマである。研修会は一泊二日コースで出発したのがその後一日コースになったが、時には一泊の企画があってもいいのではなかろうか。
(T・Y生)

“若い力を導入しよう”

東海地方では毎年700名が医学部を卒業する。しかし、その中で産業衛生を志す者は、毎年10名にも満たない。産業衛生の研究、実践に携わる医師の再生産は極めて不十分な状況にある。このまま推移するならば、諸先輩達が築いた成果が、次代に継承発展されぬまま消滅する事態もありうる。かかる現状を打破するには、学会員の総力を結集した努力が必要であろう。このニュース発刊が、まずは、会員の交流を促す起爆剤になることを期待する。
(H生)

これからの諸行事予定

○昭和59年度日本産業衛生学会東海地方会

期日 昭和59年11月10日(土)
場所 浜松医科大学 教育棟特別講義室
会長 松下 寛氏(浜松医科大学公衆衛生学教室教授)

特別講演

- ①「ガス状環境汚染物質の呼吸器影響」
横山栄二氏(国立公衆衛生院労働衛生学部長)
- ②「騒音の内耳への影響—特に難聴・耳鳴・めまいの発症について」
野末道彦氏(浜松医科大学耳鼻咽喉科教授)

○第13回有機溶剤中毒研究会

期日 昭和59年12月15日(土)、16日(日)
場所 静岡県伊東市
参加連絡先:名古屋大学部衛生学教室

○第37回日本産業医協議会

期日 昭和59年10月23日
場所 広島医師会館講堂
シンポジウム「健康教育の具体的な進め方」
(司会) 高田和美(三井石油化学)
パネルディスカッション「企業における健康配慮義務の実際と問題点」
(司会) 吉村俊雄(徳山曹達)

○昭和59年度全国産業安全衛生大会

期日 昭和59年10月24日—26日
場所 広島市内各会場

○第24回日本労働衛生工学会

期日 昭和59年11月30日、12月1日
場所 岡山ロイヤルホテル
学会実行委員長 岡山大学医学部長 緒方正名
シンポジウム「作業環境管理に関連する生物学的モニタ

リングの意義とその技術の現状」

○第43回日本公衆衛生学会

期日 昭和59年10月31日、11月1日、11月2日
場所 大阪府青少年会館外大阪市内

会員の消息

新入会員 19名

(愛知) 古田達次(㈱エルモ産業医)、伊藤哲也(保健衛生大学・医・公衛)、笠原正男(保健衛生大学・医・病理)、長岡芳(保健衛生大学・医・公衛)、奥村清(日本硝子㈱安全衛生課)、祖父江勝昭(日本硝子㈱安全衛生課)、岡勇二(日本特殊陶業㈱産業医)、浜崎日出男(日本特殊陶業㈱安全衛生課)、加藤幸久(保健衛生大学・医・公衛)、間瀬美夫(東海環境測定センター)、田中武志(東海労働衛生研究所)、永坂佳規(永坂 歯科医院)

(静岡) 池田賢人(東海大学・医・公衛)、間宮康喜(浜松赤十字病院内科)

(岐阜) 水野陸三(岐阜県産業衛生センター)、服部啓一(岐阜県産業衛生センター)

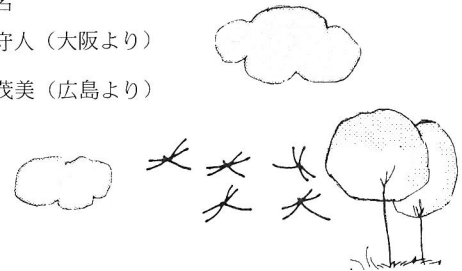
(三重) 服部保次(富士電気㈱鈴鹿工場健康管理センター)、堤すま子(中部電力㈱津支店)、寺嶋永子(中部電力㈱津支店)

退会会員 5名

(愛知) 安藤重幸、渡辺義幸、成田美代、
(静岡) 加藤知寿子 (岐阜) 合津三郎

転入会員 2名

(岐阜) 宮村守人(大阪より)
(愛知) 大石茂美(広島より)



編集後記

○産業の発展の中で労働衛生の果たす役割は大きい。大学研究者、専属産業医、嘱託産業医また、コメディカルの人々が一体となった対応を迫られる様な時代になってきた。
○地方会は東海地方における労働衛生の中心であり、このニュースが之等関係者へのきずなになることを切に希望したい。
○いろいろと曲折はあったが、こゝに第一号をまとめた。委員の編集への情熱は非常に強く、文字通り会員相互の情報交換のきずなとする為に、より多くの情報を提供したいと。
○話題となったテーマは、例えばVDT新機材、職業病、メンタルヘルス、産業医師後継者問題等々を総合的にルポして、会員の志向をまとめたらなど、編集にかける期待は大きい。
○今後より充実する為に会員の皆さんから積極的な御投稿をお願いします。御批判、御意見、御体験、随想、個人の動静何でも結構です。お互いのニュースとしてより充実したいものです。よろしく願います。
(森川利彦)

次回発行

昭和60年1月 予定
編集委員 (五十音順)
※岩井淳(三菱名古屋病院)
柏木時彦(豊田健康管理クリニック)
加藤保夫(保健衛生大)
小森義隆(大同病院)
竹内康浩(名大医衛生)
久永直見(名大医衛生)
森川利彦(三菱電機)
※編集責任者